

講座番号 D15	講座名：
	化学物質の環境リスク～リスクの大きさの考え方～
講師名：東北工業大学 環境応用化学科 内田 美穂	

対象者	未就学児	小学校1～3年	小学校4～6年	中高生	大人
				○	○




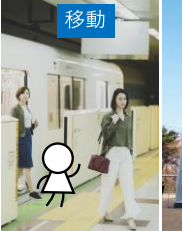

実施会場	・たまきさんサロン ・受講団体が準備 (教室、講義室など)
------	-------------------------------------

対応人数	10人～80人
所要時間	60分程度
受講者が準備するもの	スクリーン、プロジェクター

参考教科 ※1	
参考SDGs※2	  

※1 学校で利用する際に参考となる教科

※2 参考となるSDGsのゴール

講座概要	化学物質が人の健康や生態系に及ぼすリスクの大きさの考え方について学ぶ
講座内容	<p>私たちは、日々の日常生活で食事や呼吸などを通して様々な化学物質を体の中に取り込んでいます。化学物質の性質によっては、人の健康にリスクを生じることがあります。しかし、化学物質はいつもリスクが生じるような「悪者」ではありません。使い方や使う量を考えて使うことで様々な良い効果を発揮します。それでは、良い面を引き出し、リスクを小さくするにはどうしたらよいのでしょうか。化学物質のリスクが「大きい」/「小さい」というのはどのような考えに基づいているのか紹介します。</p> <p>★ 曝(ばく)露量[化学物質を体に取り込む量]に影響を与える要因</p> <p>どこですごすのか どんな行動? どのくらい</p> <p>吸入曝露量 = 空気中濃度 × 呼吸率 × 行動時間</p> <p>吸って  吸入</p> <p>↓ ↓ ↓</p> <p>生活環境 行動様式</p> <p> 屋内  移動  移動  屋外</p>
講師よりコメント	化学物質を体にどれだけ取り込むのか(ばく露量といいます)は、人それぞれが毎日過ごす生活環境や行動様式に大きく左右されます。感染症対策で生活環境や行動様式への注意喚起がなされる昨今ですが、化学物質についても同様です。リスクを大きくする要因をすることで、対策をたてていくことができます。
備考	実施時間の調整を行うことも可能です。 実施内容については、様々なニーズにあわせて対応することができます。 プロジェクターやスクリーン等が無い場合はご相談ください。